

基本計画書

基本計画								
事項	記入欄						備考	
計画の区分	研究科の専攻の設置							
フリガナ設置者	カキケンコリツカクイカクシケン 長崎県公立大学法人							
フリガナ大学の名称	カキケンリツカクイカクシケン 長崎県立大学大学院 (Graduate School, University of Nagasaki)							
大学本部の位置	長崎県佐世保市川下町123番地							
大学の目的	長崎県立大学大学院は、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて、文化の進展に寄与することを目的とする。							
新設学部等の目的	地域創生研究科 地域創生専攻（博士後期課程） 変化の激しい時代の中で、多くの島嶼を有するという特徴を活かした長崎の発展のためには、力強い産業を育て魅力あるしごとを生み出すことが必要であり、そのために地域資源の有効活用による新たな先端的社会の構築に貢献できるリーダーとなる研究者、教育者及び高いレベルの専門業務を担う人材を養成することを目的として本博士後期課程を設置しようとするものである							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地
	地域創生研究科 [Graduate school of Regional Design and Creation] 地域創生専攻 (博士後期課程) [Division of Regional Design and Creation]	年	人	年次 人	人	博士 (地域社会 マネジメント) 【Doctor of Philosophy in Regional Society Management】 博士 (情報工学) 【Doctor of Philosophy in Computer Science】 博士 (栄養学) 【Doctor of Philosophy in Nutrition】	令和4年4月 第1年次	長崎県佐世保市 川下町123番地
	計		3		9			
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	人間健康科学研究科 栄養科学専攻(D) (廃止) (△9) ※令和4年4月学生募集停止予定							

教育課程	新設学部等の名称 地域創生研究科 地域創生専攻（博士後期課程）	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数								
		講義	演習	実験・実習	計									
		8科目	4科目	0科目	12科目	22単位								
教員 組 の 概 要	学部等の名称		専任教員等					兼任 教員等						
	新設分	地域創生研究科 地域創生専攻（博士後期課程）	教授	准教授	講師	助教	計	助手	人					
			人	人	人	人	人	人	人					
			31 (31)	10 (10)	4 (4)	— (—)	45 (45)	— (—)	1 (1)					
		計	31 (31)	10 (10)	4 (4)	— (—)	45 (45)	— (—)	— (—)					
	既設分	地域創生研究科 地域社会マネジメント専攻（修士課程）	教授	准教授	講師	助教	計	助手	人					
			人	人	人	人	人	人	人					
			31 (31)	19 (19)	7 (7)	— (—)	57 (57)	— (—)	20 (20)					
			13 (13)	3 (3)	2 (2)	— (—)	18 (18)	— (—)	20 (20)					
	既設分	地域創生研究科 情報工学専攻（修士課程）	教授	准教授	講師	助教	計	助手	人					
人			人	人	人	人	人	人						
		13 (13)	7 (7)	7 (7)	1 (1)	28 (28)	— (—)	35 (35)						
	計	57 (57)	29 (29)	16 (16)	1 (1)	103 (103)	— (—)	— (—)						
	合計	64 (64)	29 (29)	16 (16)	1 (1)	110 (110)	— (—)	— (—)						
教員 以外 の 職 員 の 概 要	職 種		専 任		兼 任		計							
	事務職員		人		人		人							
			97 (97)		0 (0)		97 (97)							
	技術職員		7 (7)		0 (0)		7 (7)							
	図書館専門職員		9 (9)		0 (0)		9 (9)							
	その他の職員		3 (3)		0 (0)		3 (3)							
	計		116 (116)		0 (0)		116 (116)							
校 地 等	区 分		専 用		共 用		共用する他の 学校等の専用		計					
	校舎敷地		121,499㎡		—㎡		—㎡		121,499㎡					
	運動場用地		53,546㎡		—㎡		—㎡		53,546㎡					
	小 計		175,045㎡		—㎡		—㎡		175,045㎡					
	そ の 他		13,810㎡		—㎡		—㎡		13,810㎡					
	合 計		188,855㎡		—㎡		—㎡		188,855㎡					
校 舎	専 用		共 用		共用する他の 学校等の専用		計							
	53,549㎡ (50,235㎡)		—㎡ (—㎡)		—㎡ (—㎡)		53,549㎡ (50,235㎡)							
教室等	講義室		演習室		実験実習室		情報処理学習施設		語学学習施設					
	45室		36室		63室		10室 (補助職員 2人)		4室 (補助職員 1人)					
専任教員研究室		新設学部等の名称 地域創生研究科地域創生専攻（博士後期課程）				室 数		45 室						
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称		図書 〔うち外国書〕 冊		学術雑誌 〔うち外国書〕 種		電子ジャーナル 〔うち外国書〕		視聴覚資料 点		機械・器具 点		標本 点	
	地域創生研究科 地域創生専攻 (博士後期課程)		534,036 [126,392] (527,670 [125,060])		1,150 [530] (1,150 [530])		68 [63] (68 [63])		19,125 (18,715)		2,236 (2,236)		1 (1)	
	計		534,036 [126,392] (527,670 [125,060])		1,150 [530] (1,150 [530])		68 [63] (68 [63])		19,125 (18,715)		2,236 (2,236)		1 (1)	
図 書 館	面積		閲覧座席数				取 納 可 能 冊 数							
	6,712㎡		677				500,000							
体 育 館	面積		体育館以外のスポーツ施設の概要											
	4,827㎡		武道館		弓道場		テニスコート (14面)							

経費の見積り及び維持方法の概要	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	<ul style="list-style-type: none"> ・学部と不可分のため、学部も含めて計上しており、左記に加えて指導学生1人につき、下記の金額が加算される。 ○実験系：400千円 ○非実験系：100千円 <ul style="list-style-type: none"> ・学部と不可分のため、総額を記載。 <ul style="list-style-type: none"> ・学部と不可分のため、総額を記載。図書購入費には、電子ジャーナル・データベースの整備費（運用コストを含む。）を含む。 <ul style="list-style-type: none"> ・学部と不可分のため、総額を記載。 	
		教員1人当り研究費等		613千円	613千円	613千円	－千円	－千円		－千円
		共同研究費等		58,183千円	58,183千円	58,183千円	－千円	－千円		－千円
		図書購入費	75,160千円	75,160千円	75,160千円	75,160千円	－千円	－千円		－千円
		設備購入費	103,811千円	120,000千円	120,000千円	120,000千円	－千円	－千円		－千円
学生1人当り納付金	第1年次	742千円	536千円	536千円	－千円	－千円	－千円	上段：県内 下段：県外		
	第2年次	919千円	536千円	536千円	－千円	－千円	－千円			
	第3年次									
学生納付金以外の維持方法の概要		長崎県からの運営交付金を充当								
大学の名称		長崎県立大学								
学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地		
地域創生研究科	年	人	年次人	人		倍		長崎県佐世保市川下町123番地		
地域社会マネジメント専攻	2	15	－	30	修士(経営学)(経済学)(^{ハイ} 社会学)(文化振興学)	1.26	令和2年度	長崎県西彼杵郡長与町まなび野1丁目1番1号		
情報工学専攻	2	10	－	20	修士(情報工学)	0.7	令和2年度	長崎県西彼杵郡長与町まなび野1丁目1番1号		
人間健康科学専攻	2	12	－	24	修士(看護学)(公衆衛生看護学)(栄養学)	1.08	令和2年度			
経済学研究科								長崎県佐世保市川下町123番地		
産業経済・経済開発専攻	2	－	－	－	修士(経済学)	－	平成20年度	令和2年度より学生募集停止		
国際情報学研究科								長崎県西彼杵郡長与町まなび野1丁目1番1		
国際交流学専攻	2	－	－	－	修士(国際交流学)	－	平成20年度	令和2年度より学生募集停止		
人間健康科学研究科								長崎県西彼杵郡長与町まなび野1丁目1番1		
看護学専攻	2	－	－	－	修士(看護学、公衆衛生看護学)	－		令和2年度より学生募集停止		
栄養科学専攻(博士前期課程)	2	－	－	－	修士(栄養学)	－	平成20年度	令和2年度より学生募集停止		
栄養科学専攻(博士後期課程)	3	3	－	9	博士(栄養学)	0.2	平成20年度	令和4年度より学生募集停止		
経営学部						1.05		長崎県佐世保市川下町123番地		
経営学科	4	140	－	560	学士(経営学)	1.05	平成28年度			
国際経営学科	4	60	－	240	学士(経営学)	1.04	平成28年度			

既設大学等の状況	地域創造学部						1.02		長崎県佐世保市川下町123番地	
	公共政策学科	4	120	—	480	学士 (公共政策学)	1.02	平成28年度		
	実践経済学科	4	130	—	520	学士 (経済学)	1.02	平成28年度		
	経済学部						—		長崎県佐世保市川下町123番地	
	経済学科	4	—	—	—	学士 (経済学)	—	平成20年度		平成28年度より学生募集停止
	地域政策学科	4	—	—	—	学士 (地域政策学)	—	平成20年度		平成28年度より学生募集停止
	流通・経営学科	4	—	—	—	学士 (流通・経営学)	—	平成20年度		平成28年度より学生募集停止
	国際社会学部						1.07		長崎県西彼杵郡長与町まなび野1丁目1番1	
	国際社会学科	4	60	—	240	学士 (国際社会学)	1.07	平成28年度		
	情報システム学部						1.09		長崎県西彼杵郡長与町まなび野1丁目1番1	
	情報システム学科	4	40	—	160	学士 (情報システム学)	1.09	平成28年度		
	情報セキュリティ学科	4	80	—	320	学士 (情報セキュリティ学)	1.09	平成28年度		令和3年度 入学定員増 (40人→80人)
	国際情報学部						—		長崎県西彼杵郡長与町まなび野1丁目1番1	
	国際交流学科	4	—	—	—	学士 (国際交流学)	—	平成20年度		平成28年度より学生募集停止
	情報メディア学科	4	—	—	—	学士 (情報メディア学)	—	平成20年度		平成28年度より学生募集停止
看護栄養学部						1.04		長崎県西彼杵郡長与町まなび野1丁目1番1		
看護学科	4	60	—	240	学士 (看護学)	1.04	平成20年度			
栄養健康学科	4	40	—	160	学士 (栄養健康学)	1.03	平成20年度			
附属施設の概要	該当なし									

教育課程等の概要														
(地域創生研究科 地域創生専攻 博士後期課程)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専攻共通科目	アカデミックスキル特講	1①	2			○			9	3				オムニバス・共同・メディア
	地域創生学特講	1①	2			○			7	5	3			オムニバス・メディア
	地域創生学演習	1②	2				○		7	2	2			オムニバス・共同・メディア兼1
	小計（3科目）	—	6	0	0	—	—	—	19	8	3			
専門科目	地域マネジメント分野 地域マネジメント特講	1③		2		○			8	1	1			オムニバス・メディア
	地域マネジメント分野 地域システム特講	1③		2		○			8	2				オムニバス・メディア
	地域情報工学分野 情報セキュリティ特講	1③		2		○			5	2				オムニバス・メディア
	地域情報工学分野 人間情報科学特講	1④		2		○			4	1				オムニバス・メディア
	人間栄養健康科学分野 基礎栄養科学特講	1③		2		○			4	3				オムニバス・共同（一部）・メディア
	人間栄養健康科学分野 実践栄養科学特講	1④		2		○			2	2	3			オムニバス・共同（一部）・メディア
小計（6科目）	—	0	12	0	—	—	—	31	10	4				
研究指導科目	特別研究Ⅰ	1通	4				○		30	7	1			
	特別研究Ⅱ	2通	4				○		30	7	1			
	特別研究Ⅲ	3通	4				○		30	7	1			
	小計（3科目）		12	0	0				30	7	1			
合計（12科目）		—	18	12	0	—	—	—	31	10	4			
学位又は称号	博士（地域社会マネジメント） 博士（情報工学） 博士（栄養学）		学位又は学科の分野			経済学関係、社会学・社会福祉学関係、工学関係、家政関係								
卒業要件及び履修方法								授業期間等						
修了要件は、本研究科地域創生専攻博士後期課程に、原則として3年以上在学し、専攻共通科目6単位、専門科目から4単位以上（所属とする分野の科目を少なくとも2単位以上含むこと）、研究指導科目から12単位の計22単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、博士学位論文の審査及び最終試験に合格した場合に学位を授与する。								1学年の学期区分			4学期			
								1学期の授業期間			8週			
								1時限の授業時間			90分			

授 業 科 目 の 概 要			
（地域創生研究科 地域創生専攻 博士後期課程）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻共通科目	アカデミックスキル特講	<p>（概要）複雑多様化する地域社会の諸問題に対して、高度な専門的知識を備え、さらに、異なる専門領域と協働することで問題解決を図ることができる研究者としての基本的なスキルの修得を目指した授業である。具体的には、望ましい倫理規範の会得、研究のプロセス、すなわち、研究課題の設定、文献検討の方法、研究デザインの組み立て、研究方法の設定、結果の解釈、総括等の方法のほか、研究論文の構成および論文発表の必要性や効果的な発表方法の獲得のための内容が展開される。なお、この授業では1テーマにつき3回の授業において異分野の教員がチームで取り組み協力することで、受講生の専門分野とその周辺領域の観点から研究の拡大と深化を支援する。</p> <p>（オムニバス方式／全15回） ⑨ 橋本（松本）優花里・⑱ 島 成佳・⑳ 大曲 勝久／3回 （共同）</p> <p>(1) 地域社会マネジメント分野、情報工学分野、栄養科学分野から成る本専攻科に共通する論文の適正・適切な引用方法、データ改ざん・捏造等の禁止、二重投稿の禁止、オーサーシップなど、研究者として知っておくべき基礎的な研究倫理の留意点を解説する。 (2) 第1回授業の内容を踏まえ、地域社会マネジメント分野、情報工学分野、栄養科学分野のうち、受講生の専門分野に特徴的な研究倫理の留意点を解説する。</p> <p>(3) 地域社会マネジメント分野、情報工学分野、栄養科学分野のうち、受講生の専門分野以外の分野での研究倫理の留意点を概説するとともに、それらと受講生の専門分野の内容との比較を通じて受講生の研究を遂行する上での課題を検討する。</p> <p>⑥ 宮地 晃輔・⑰ 平岡 透・⑳ 城内 文吾／3回）（共同） (1) 地域社会マネジメント分野、情報工学分野、栄養科学分野から成る本専攻科に共通する、地域創生に関わる基礎的な研究動向を解説する。 (2) 地域社会マネジメント分野、情報工学分野、栄養科学分野のうち、受講生の専門分野に特徴的な研究の動向を解説する。</p> <p>(3) 地域社会マネジメント分野、情報工学分野、栄養科学分野のうち、受講生の専門分野以外の分野の研究動向について概説し、受講生の専門分野の内容との比較を通じて受講生の研究を進展させるための視点を提供する。</p> <p>⑦ 荻野 晃・⑱ 星野 文学・⑳ 大曲 勝久／3回）（共同） (1) 地域社会マネジメント分野、情報工学分野、栄養科学分野から成る本専攻科に共通する、地域創生に関わる基礎的な研究課題についてホットトピックを解説する。 (2) 地域社会マネジメント分野、情報工学分野、栄養科学分野のうち、受講生の専門分野に特徴的な研究課題について解説する。</p> <p>(3) 地域社会マネジメント分野、情報工学分野、栄養科学分野のうち、受講生の専門分野以外の分野の研究課題におけるホットトピックを概説し、受講生の専門分野の内容との比較を通じて受講生の研究の深化を図る。</p> <p>① 関谷 融・⑳ 飛谷 謙介・㉑ 松澤 哲宏／3回）（共同） (1) 地域社会マネジメント分野、情報工学分野、栄養科学分野から成る本専攻科に共通する、地域創生に向けた基礎的な研究のデザインの方法を解説する。 (2) 地域社会マネジメント分野、情報工学分野、栄養科学分野のうち、受講生の専門分野に特徴的な研究のデザイン方法を解説する。</p> <p>(3) 地域社会マネジメント分野、情報工学分野、栄養科学分野のうち、受講生の専門分野以外の分野の研究のデザイン方法を概説するとともに、受講生の専門分野の内容との比較を通じて受講生の研究デザインの充実を図る。</p>	オムニバス方式・共同・メディア

授 業 科 目 の 概 要			
（地域創生研究科 地域創生専攻 博士後期課程）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻共通科目	アカデミックスキル特講	<p>① 関谷 融・⑮ 片山 徹也・⑳ 大曲 勝久／1回）（共同） 地域社会マネジメント分野、情報工学分野、栄養科学分野から成る本専攻科に共通する、地域創生を念頭に置いた基礎的な研究結果の分析方法と結果の解釈、総括等の方法について解説する。</p> <p>⑦ 荻野 晃・⑮ 片山 徹也・⑳ 大曲 勝久／1回）（共同） 地域社会マネジメント分野、情報工学分野、栄養科学分野のうち、受講生の専門分野に特徴的な研究結果の分析方法と結果の解釈、総括等の方法について解説する。</p> <p>⑥ 宮地 晃輔・⑮ 片山 徹也・⑳ 大曲 勝久／1回）（共同） 地域社会マネジメント分野、情報工学分野、栄養科学分野のうち、受講生の専門分野以外の分野での研究結果の分析方法と結果の解釈、総括等の方法について概説し、受講生の専門領域の内容との比較を通じて、研究成果を多角的に検討する方法を支援する。</p>	オムニバス方式・共同・メディア

（注）

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目であって同時に授業を行う学生数が40人を超えることを想定するものについては、その旨及び当該想定する学生数を「備考」の欄に記入すること。
- 3 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。

授 業 科 目 の 概 要			
(地域創生研究科 地域創生専攻 博士後期課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻共通科目	地域創生学特講	<p>(概要) 複雑多様化する地域社会の諸問題に対して、高度な専門的知識を備え、さらに、異なる専門領域と協働することで問題解決を図るための多角的な視点の獲得を目指す。すなわち、受講生がこれまで培った専門知識と技術を一層高度化させ、かつ、地域経済、経営、メディア、情報工学、栄養健康科学分野の知識を組み合わせ・活用することで地域貢献に資するためのつなぐ力の獲得を主眼とする。そのために、地域社会マネジメント分野、地域情報工学分野、人間栄養健康科学分野の担当教員が、これらの領域と地域創生との関連性について、3分野が相互に関連して地域課題解決に応用される例として、主に①地域社会の持続可能性、②地域社会における生活と経済、③地域社会のグローバル化、④地域社会のアクセシビリティ、⑤地域社会の健康維持の観点から講義を行うとともに各観点が地域創生に果たす役割について考え、その実現に向けた方策について検討する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>③ 谷澤 毅/1回 「総論」 本科目の内容とねらいについて概略を紹介する。そして、ドイツ中世都市の発展と現状などを事例としながら地域の成り立ちとあり方の一端について検討するとともに、歴史学的なアプローチが地域創生の実現の鍵となる可能性について理解が深まるよう、地域についての史的考察とその意義の解説を加える。</p> <p>③⑤ 石田 聖/1回 「地域社会の持続可能性へのアプローチ」 地域社会を含めた持続可能社会を構築する上での課題について協働型ガバナンスと合意形成論の観点から、自然科学・生命科学の専門家もかかわった自然再生事業、感染症対策、社会資本整備、人材育成の事例に基づき地域創生のヒントを探る。</p> <p>⑭ 吉村 元秀/1回 「地域社会の持続可能性へのアプローチ」 観光サービスマーケティングと観光サービスデザインについての事例研究を通して、観光情報システムが地域外食産業や食文化の活性化といった地域創生に果たす役割を考え、それにより未来を創造する発想力を身に着けることを目指す。</p> <p>⑳ 古場 一哲/1回 「地域社会の持続可能性へのアプローチ」 食品の機能性に関する研究は、食品系企業や地域経済の活性化にとってもますます重要な戦略の一つになっている。近年の研究の中から、特に脂質代謝調節に関する食品機能の研究について概説し、食品開発が地域創生に果たす役割を考える。</p> <p>⑲ 岡田 雅之/1回 「地域社会の生活と経済の関連性へのアプローチ」 企業誘致や地域定住に深く関わるリモートワーク・テレワークや食生活・健康増進の情報共有に欠かせないインターネット基盤について、経路制御、名前解決に関わる最新のセキュリティ技術とその運用について学び、それらが地域創生に果たす役割について考える。</p> <p>⑳ 飛奈 卓郎/1回 「地域社会の生活と経済の関連性へのアプローチ」 運動習慣形成に有効な情報発信とは？健康増進による地域の経済効果は？等も含めて、健康増進が地域創生に果たす役割について皆で意見を出し合い、現在の地域が有する問題解決に向けた検討をする。</p> <p>㉑ 福島 涼史/1回 「地域社会のグローバル化へのアプローチ」 グローバル化の進展に伴い様々な国から日本にやってくる人々へ社会生活を行う上で必要な各種のサービスを的確に提供することが求められている。この回では、感染症対策を含め入国管理や在資格等について法律に関する専門知識を共有し、共生社会での地域創生を考える。</p>	オムニバス方式・メディア

授 業 科 目 の 概 要			
(地域創生研究科 地域創生専攻 博士後期課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻 共通 科目	地域創生学特講	<p>(㊸ 喜多 義弘/1回) 「地域社会のグローバル化へのアプローチ」 地域の少額即時決済、あるいは体調等の個別スマートサービス等において必須となる、人・動物や農産物・工業製品の即時識別のための生体認証を通じ、身近にある生体情報とそれを活用した認証技法、および個人やモノを識別するための機械学習法に関する知識を学ぶ。そして、生体認証技術が地域創生に果たす役割について考える。</p> <p>(㊹ 竹内 昌平/1回) 「地域社会のグローバル化へのアプローチ」 地域の高齢者の健康維持に影響する可能性がある買い物行動や、人口構成が変わることによる感染症の基本再生産数の変化などについて概説する。そして、高齢者の健康維持と地域創生の関係について考えたうえで、現在の地域が有する問題解決に向けた栄養疫学分野からのアプローチを検討する。</p> <p>(㊺ 賈 曦/1回) 「地域社会のアクセシビリティへのアプローチ」 SDGsの目標と関連しつつ、地域社会を含めた持続可能な超スマート社会を構築するためには、イノベーション能力、メディアの情報伝達、地域社会のニーズの掘り起こしなど多くの課題があることを概説する。そして、地域創生における超スマート社会の実現に向けた地域コミュニティの課題について検討する。</p> <p>(㊻ 片山 徹也/1回) 「地域社会のアクセシビリティへのアプローチ」 地域社会で活用される情報コンテンツの色彩情報がアクセシビリティ及びユーザビリティに及ぼす影響について、デザイン学や人間工学等を踏まえた学際的観点から概説する。そして、地域創生に必要な多様な利用者にとって望ましい情報アーキテクチャの設計手法について検討する。</p> <p>(㊼ 世羅 至子/1回) 「地域社会のアクセシビリティへのアプローチ」 生活習慣病である慢性疾患を抱えた高齢者に対して、栄養を維持することが重要である。高齢者の栄養状態の改善についての意見交換を行い、特に専門医などの医療資源が不足している離島などの地域に向けてどのように情報発信していくかについて、地域創生の観点から検討する。</p> <p>(㊽ 大重 育美/1回) 「地域社会の健康維持へのアプローチ」 地域社会において業務の継続が求められる交代制勤務者について、特有の睡眠・疲労の実態を概説する。そのうえで、リスクの所在と有用なマネジメント方法を多角的なアプローチから考察し、地域創生を担うエッセンシャルワーカーの健康維持を含めた課題について検討する。</p> <p>(㊾ 飛谷 謙介/1回) 「地域社会の健康維持へのアプローチ」 地域社会におけるQOL（生活の質）に直結する「楽しさ」や「感動」といった心の豊かさ（感性価値）をもたらす新しい科学技術として、感覚・感性を指標化する手法に関する知識を修得し、感性情報学分野の基本的な資質を身につけることを目指す。そして、心の豊かさが地域創生に与える効果を考える。</p> <p>(㊿ 石見 百江/1回) 「地域社会の健康維持へのアプローチ」 疾病を予防し、健康維持に必要な栄養情報を得て食事管理をするプロセスの中で、地域の人々がとる行動への動機づけや栄養教育の課題について概説する。そのうえで、地域創生に欠かせない栄養教育の在り方について考える。</p>	オムニバス方式・ メディア

授 業 科 目 の 概 要			
(地域創生研究科 地域創生専攻 博士後期課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻共通科目	地域創生学演習	<p>(概要) 複雑多様化する地域社会の諸問題に対して、高度な専門的知識を備え、さらに、異なる専門領域と協働することで問題解決を図ることの意義の理解を深めるための内容を展開する。「地域創生学特講」で学んだ内容を基に、地域社会マネジメント分野、地域情報工学分野、人間栄養健康科学分野の担当教員から提示される、上記の3分野にまたがる実際あるいは想定される具体的な課題に対し、解決するための方策の立案方法や評価方法について1課題につき5回の演習を行う。5回目の授業では、それらの内容の関連性を踏まえたうえで統合的な発展の方策や受講生の研究テーマへの応用を検討しプレゼンテーションを行うことで学際的な研究方法について領域を超えた問題解決方法の理解を深める。また、各専門分野の基礎研究および実践研究が地域の活性化にどのように貢献しうるかを理解する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>地域社会の課題1に対する地域社会マネジメント分野からのアプローチ (① ソムチャイ チャットウィチェンチャイ・兼任教員/1回) (共同) 提示された地域社会の課題1に対して、主に地域における人と社会の関係性など地域社会マネジメント分野の見地から解決方法を検討する。 (⑤大塚が演習を主導し、17ソムチャイが地域情報工学分野の視点から補完する。)</p> <p>地域社会の課題1に対する地域情報工学分野からのアプローチ (① ソムチャイ チャットウィチェンチャイ・③ 飛奈 卓郎/1回) (共同) 提示された地域社会の課題1に対して、主にデータを活用したビジネスインテリジェンスなど地域情報工学分野の見地から解決方法を検討する。 (①ソムチャイが演習を主導し、40飛奈が人間栄養健康科学分野の視点から補完する。)</p> <p>地域社会の課題1に対する人間栄養健康科学分野からのアプローチ (③ 飛奈 卓郎・② 森田 均/1回) (共同) 提示された地域社会の課題1に対して、主に地域の健康の保持など人間栄養健康科学分野の見地から解決方法を検討する。 (③飛奈が演習を主導し、3森田が地域社会マネジメント分野の視点から補完する。)</p> <p>地域社会の課題1に対する地域創生の視点からの総合的アプローチ (② 森田 均・兼任教員/1回) (共同) 提示された地域社会の課題1に対して、地域におけるメディアやモビリティの課題を含めた地域創生の見地から解決方法を検討する。 (②森田が演習を主導し、⑤大塚が地域社会マネジメント分野の視点から補完する。)</p> <p>地域社会の課題1に対するアプローチ：検討結果の発表と討論 (② 森田 均・① ソムチャイ チャットウィチェンチャイ・③ 飛奈 卓郎・兼任教員/1回) (共同) これまでに検討した課題1に対して、さらなる発展方策や受講生の研究テーマへの応用方策を含めた総合的な検討結果の発表（プレゼンテーション）と討論を行う。</p> <p>地域社会の課題2に対する地域社会マネジメント分野からのアプローチ (⑩ 車 相龍・⑧ 齋藤 正也/1回) (共同) 提示された地域社会の課題2に対して、主に地域活性化(地域計画)など地域社会マネジメント分野の見地から解決方法を検討する。 (⑩車が演習を主導し、35齋藤が地域情報工学分野の視点から補完する。)</p>	オムニバス方式・共同・メディア

授 業 科 目 の 概 要			
(地域創生研究科 地域創生専攻 博士後期課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻共通科目	地域創生学演習	<p>地域社会の課題2に対する地域情報工学分野からのアプローチ (㉔ 齋藤 正也・㉕ 竹内 昌平/1回) (共同) 提示された地域社会の課題2に対して、主に時系列データ解析など地域情報工学分野の見地から解決方法を検討する。 (㉔齋藤が演習を主導し、㉕竹内が人間栄養健康科学分野の視点から補完する。)</p> <p>地域社会の課題2に対する人間栄養健康科学分野からのアプローチ (㉖ 石見 百江・㉗ 車 相龍/1回) (共同) 提示された地域社会の課題2に対して、主に地域の栄養課題(栄養教育)など人間栄養健康科学分野の見地から解決方法を検討する。 (㉖石見が演習を主導し、㉗車が地域社会マネジメント分野の視点から補完する。)</p> <p>地域社会の課題2に対する地域創生の視点からの総合的アプローチ (㉘ 竹内 昌平・㉙ 石見 百江/1回) (共同) 提示された地域社会の課題2に対して、栄養疫学を含めた地域創生の見地から解決方法を検討する。 (㉘竹内が演習を主導し、㉙石見が人間栄養健康科学分野の視点から補完する。)</p> <p>地域社会の課題2に対するアプローチ：検討結果の発表と討論 (㉚ 車 相龍・㉛ 齋藤 正也・㉜ 石見 百江・㉝ 竹内 昌平/1回) (共同) これまでに検討した課題2に対して、さらなる発展方策や受講生の研究テーマへの応用方策を含めた総合的な検討結果の発表(プレゼンテーション)と討論を行う。</p> <p>地域社会の課題3に対する地域社会マネジメント分野からのアプローチ (㉞ 神保 充弘・㉟ 吉村 元秀/1回) (共同) 提示された地域社会の課題3に対して、主に経済学(マーケティング)など地域社会マネジメント分野の見地から解決方法を検討する。 (㉞神保が演習を主導し、㉟吉村が地域情報工学分野の視点から補完する。)</p> <p>地域社会の課題3に対する地域情報工学分野からのアプローチ (㊱ 吉村 元秀・㊲ 大曲 勝久/1回) (共同) 提示された地域社会の課題3に対して、主に知覚情報処理やソフトウェアコンピューティングなど地域情報工学分野の見地から解決方法を検討する。 (㊱吉村が演習を主導し、㊲大曲が人間栄養健康科学分野の視点から補完する。)</p> <p>地域社会の課題3に対する人間栄養健康科学分野からのアプローチ (㊳ 大曲 勝久・㊴ 古場 一哲/1回) (共同) 提示された地域社会の課題3に対して、主に臨床栄養学など人間栄養健康科学分野の見地から解決方法を検討する。 (㊳大曲が演習を主導し、㊴古場が人間栄養健康科学分野の視点から補完する。)</p> <p>地域社会の課題3に対する地域創生の視点からの総合的アプローチ (㊵ 古場 一哲・㊶ 神保 充弘/1回) (共同) 提示された地域社会の課題3に対して、食品開発を含めた地域創生の見地から解決方法を検討する。 (㊵古場が演習を主導し、㊶神保が地域社会マネジメント分野の視点から補完する。)</p> <p>地域社会の課題3に対するアプローチ：検討結果の発表と討論 (㊷ 神保 充弘・㊸ 吉村 元秀・㊹ 大曲 勝久・㊺ 古場 一哲/1回) (共同) これまでに検討した課題3に対して、さらなる発展方策や受講生の研究テーマへの応用方策を含めた総合的な検討結果の発表(プレゼンテーション)と討論を行う。</p>	オムニバス方式・共同・メディア

授 業 科 目 の 概 要			
(地域創生研究科 地域創生専攻 博士後期課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	地域マネジメント特講	<p>(概要) 地域マネジメント分野を担当する教員がその専門的な立場からオムニバス方式で自分の専門領域について講義し、最終的には地域社会マネジメント分野における全体的な教育・研究内容を理解させることを目的としている。</p> <p>地域マネジメント特講では、ローカル及びグローバルの観点から主に経営学、経済学、政策科学の社会科学的方法論的アプローチによって地域社会について主にマネジメント・歴史・地域計画等の視点から講義テーマを構成している。</p> <p>本講義において地域社会における課題を的確に把握・分析し、解決策を導出できる能力を涵養するために、主に経営学、経済学、以上に関連する社会科学の領域からオムニバス方式によって各教員の専門分野からの講義テーマを提供することで、受講者の地域マネジメント領域における高度な専門性を涵養するとともに博士論文テーマ設定の検討にも寄与できる講義を行う。</p> <p>なお、この講義は2分野あるいは3分野に渡る研究課題に取り組む地域情報知能分野及び人間栄養健康科学分野の博士後期課程学生へ向けでも開講されている。他分野の学生の履修にも十分な配慮するために当該分野の指導教員と連携しながら講義を展開する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>⑥ 宮地 晃輔/4回</p> <p>(1) 本講義の概要について解説を行う。講義前半では、本講義開設の目的について述べたのちに「地域マネジメントユニット」、「地域社会ユニット」を担当する教員がどのような内容の講義を実施するかをあらかじめ解説する。講義後半では、本講義のキーワードをなす「地域」という概念について社会経済史学の観点から光を当て、「地域」という観点から社会を分析していく手法の可能性の一端を受講生は理解する。</p> <p>(2) 営利組織(営利企業)・非営利組織(行政機関等)のいずれも経営組織体として組織目的の到達(達成)のために会計システムを運用することが必要になる。地域企業・地方自治体においては経営資金や財源に関して選択集約的・戦略的な資源配分の必要度・喫緊度が大都市部(中央)と比較して格段に高く、これを支える会計システム運用に対する高度な「知」が必要となっている。本講義では組織会計システムを地域組織を主体として、その最新動向をふまえたうえで講義を行う。</p> <p>(3) 地域マネジメントユニットのテーマであった「地域と組織会計システム」、「地域とリスクマネジメント」、「地域とマーケティング史」、「地域と国際経済」、「地域と国際物流」、「地域社会情報学」に対して、受講者各自が全体的視野からの総括を行い、かつ理解を深化させることを目指す。具体的には長崎県地域の諸問題に対するマネジメントを軸とした総括と深化を図る講義を行う。</p> <p>(4) 地域社会マネジメント特講の総括を行い、受講者各自が今後の研究テーマの設定につなげていくための論点を整理する。</p> <p>(5) 鴻上 喜芳/1回</p> <p>地域の営利組織・非営利組織ともに、その組織価値を増大させるため、リスクマネジメントに取り組んでいる。本講義では、リスクマネジメント研究の最新動向を踏まえ、受講者の関心のある地域組織を念頭に置いた講義を行う。</p> <p>⑧ 神保 充弘/1回</p> <p>リーマンショック以降の国内市場の急速な縮小・成熟化は、日本企業の海外進出の動きを加速化させることとなった。その進出先は先進国市場から新興国市場へとシフトした。この講義では、新興国市場、とりわけアジア市場における日本企業のマーケティング戦略を歴史的な観点から明らかにすることを通じて、その実態と特徴について考察する。その際、国内市場と海外市場におけるマーケティング戦略の比較・検討や、先進国市場と新興国市場におけるマーケティング戦略の比較・検討など、多様な視点からアプローチする。</p>	オムニバス方式・メディア

授 業 科 目 の 概 要			
(地域創生研究科 地域創生専攻 博士後期課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	地域マネジメント特講	<p>(11 矢野 生子/1回) 経済のグローバル化が進むにつれて生産要素（資本・労働）の国際間移動が活発となっている。従来の経済理論では生産要素の国際間移動を前提としていないため、現在の様々な経済問題を分析する際に矛盾や限界を生じる状況となっている。グローバルな問題は地域経済にも影響するグローバルな問題でもある。生産要素の国際間移動が国内外、さらには地域にもたらす影響と問題点について講義をおこなう。</p> <p>(7 山本 裕/1回) 物流の概念は、物的流通からロジスティクス、サプライチェーン、ブロックチェーンと変遷してきた。まずは、物流概念の変遷とその背後にある経済事象を確認する。そのうえで、地域、国内、グローバルに求められる物流とはなにか、また、日本が世界的に貢献する物流についても学ぶ。</p> <p>(32 河又 貴洋/1回) ネットワーク経済論の観点から、地域主体（ローカル/ドメスティック/インターナショナル/リージョナル/グローバル）の社会情報ネットワークをいかに構築し、社会的に受容すべきか。政治文化や社会文化的要因も考慮しながら、ネットワーク経済分析の概念・手法ならびに事例研究を紹介しつつ講義する。</p> <p>(3 谷澤 毅/3回) (1)生産と消費を取り結ぶ流通が地域社会の発展に以下に寄与してきたか、この点を明らかにするために近世・近代のドイツ北部の商業都市であるリューベックやハンブルク、ライプツィヒなど北方ヨーロッパの都市を題材として交易路の形成や商品流通の展開について解説する。地域としての都市社会が、「移動と交流」を伴う流通を通じて「開かれた地域」となり発展が促されることを受講生はこの講義を通じて理解する。 (2)長崎県の地域社会の形成事例を取り上げることにより、受講生が「地域社会ユニット」担当教員が実施した講義から学んだ内容をより深化させる機会を設ける。具体例として取り上げるのは軍港都市佐世保の成立と発展である。近代になり佐世保が軍港都市としていかに急速な発展を遂げたか、他の都市とは異なる佐世保の特異な形成・発展史を学ぶことにより、受講生は長崎県北地域の都市社会の特徴を史的側面から理解する。 (3)受講生の「地域」に関する視野を広げるために世界史的な視野の中で長崎について考える機会を設ける。ここでは、地域として「鎖国」と言われた管理貿易体制下にあった江戸時代の長崎の都市社会を念頭に置く。オランダとの交流を通じて近世・近代の世界経済体制のなかでしめた位置、オランダの長崎進出に至るまでの歴史的背景、ヨーロッパにおける長崎に関する情報の伝播について受講生は理解する。</p> <p>(10 車 相龍/1回) 地域計画は、土地と人間の結合についてその形式・内容・方法・手順などをあらかじめ考えることで、結合の産物である場所の営為に資する行為である。本講義では、地域政策・地域戦略や国土計画・都市計画など地域計画の内包的・外延的概念間の違いに留意しながらこれまでの地域計画の功罪を問い、地方（非首都地域）に足軸を置いてこれからの地域計画のあり方を展望する。</p> <p>(16 松尾 晋一/1回) 近年観光や地域活性化に文化遺産を活用する動きが、国を挙げて取り組まれている。こうしたことは地域歴史資料なくしてあり得ないが、地域歴史資料そのものへの理解は深まっていないのが現状である。地域住民のアイデンティティ形成にも大きな役割を果たす地域歴史資料の社会的役割について、あるいはそれを持続させるための諸課題など近年の事例などを提示しながら具体的に論じていく。</p> <p>(35 石田 聖/1回) 近年SDGsなど持続可能社会の構築を促すため公民連携、協働型ガバナンスが注目されている。貧困や食糧問題、気候変動、感染症対策など複雑な政策課題の解決に向け、分野横断的かつ効果的なマルチステークホルダープロセスの構築に向け関係者間でいかに合意形成を図るかは、持続可能社会を構築する上で大きな課題である。本講義では、これらの課題について協働型ガバナンスと合意形成論の観点からさまざまな話題と知識を、講義を通して取り扱う。</p>	オムニバス方式・メディア

授 業 科 目 の 概 要			
(地域創生研究科 地域創生専攻 博士後期課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	地域システム特講	<p>(概要) 地域社会マネジメント分野を担当する教員がその専門的な立場からオムニバス方式で自分の専門領域について講義し、最終的には地域社会マネジメント分野における全体的な教育・研究内容を理解させることを目的としている。</p> <p>このため、地域システム領域から幅広い知識を修得し、グローバル社会・ネットワーク社会・人間社会の観点から法学・政治学、国際関係論、メディア論及び認知科学などに関連する社会・人間科学領域のアプローチによって地域社会についての研究を支援する。したがって、地域システム特講は必須科目で、地域社会マネジメント分野の博士後期課程学生はすべて受講することが義務づけられる。学生は、自身の研究領域と各教員の専門領域との関連性を検討することで、自身の研究の幅、取り組みが拡大することを期待する。教員は地域社会マネジメント分野全体からみて、どこに自分の専門領域が位置するのかを説明するので、学生は自分の研究領域を把握し、その専門領域の講義との関連性について考察することが重要である。</p> <p>なお、この講義は2分野あるいは3分野に渡る研究課題に取り組む地域情報知能分野及び人間栄養健康科学分野の博士後期課程学生へ向けにも開講されている。他分野の学生の履修にも十分な配慮するために当該分野の指導教員と連携しながら講義を展開する。</p> <p>(オムニバス方式/15回)</p> <p>(② 森田 均/4回)</p> <p>(1) 本講義の概要について解説を行う。講義前半では、本講義開設の目的について述べたのちに「グローバル社会ユニット」、「ネットワーク社会ユニット」、「人間社会ユニット」を担当する教員がどのような内容の講義を実施するかをあらかじめ解説する。講義後半では、本講義のキーワードをなす「地域」という概念についてグローバル社会・ネットワーク社会・人間社会の観点から光を当て、「地域」という観点から社会を分析していく手法の可能性の一端を受講生は理解する。</p> <p>(2) 地域社会におけるネットワークとして最小単位のコミュニティからグローバル規模まで情報通信とモビリティをテーマとする。地域密着型の放送メディアとインターネット、ローカル交通と大陸間移動手段など規模の相違から一見すると比較対象とならないような事例についてネットワークとモビリティをキーワードとして「つながり」を見出す機会を提供する。長崎県では公共交通のICT化社会実装や再生可能エネルギーの実用化実験など様々な取り組みが繰り広げられている。これらの産学官プロジェクトについて、社会的背景、形成過程と現状を考察してサービス提供側の役割と利用者側の受容などを手掛かりに地域社会の将来を展望する。</p> <p>(3) グローバル社会・ネットワーク社会・人間社会の観点から、ネットワーク論、メディア論などに関連する社会・人間科学領域のアプローチによって地域社会に関する研究について受講者各自が全体的視野からの総括を行い、かつ理解を深化させることを目指す。</p> <p>(4) 社会システム特講の総括を行い、受講者各自が今後の研究テーマの設定につなげていくための論点を整理する。</p> <p>(2 祁 建民/2回)</p> <p>(1) 近現代中国における国家権力と社会との関係特に農村地域における権力構造・国家権力の動きと国家意思の浸透などの解明を目指し、文献資料の解説及び現地調査の資料を利用して講義する。中国の社会における国家権力は「鈍らな包丁」のようなものである。普通には緩やかにして、ものを切れない「鈍らな包丁」のようなものが、一旦動くと、まさに「鈍らな包丁」であるので、必ず絶大なパワーを以って叩き切らなければならない。中国における国家権力の強さは場合によって非常に異なっていると云える。これは中国の国家権力と社会との関係を分析する際に注意すべきところであると思う。</p> <p>(2) グローバル社会・ネットワーク社会・人間社会の観点から、法学・政治学、国際関係論などに関連する社会・人間科学領域のアプローチによって地域社会に関する研究について受講者各自が全体的視野からの総括を行い、かつ理解を深化させることを目指す。</p> <p>(4 山本 周/1回)</p> <p>グローバル社会における中国文化の位置付けを考える。まず、中国文化に関する高度な知識を身に付けるために必要な情報収集、分析などの基本的な手法について概説する。次に、これに基づいて時代のニーズに合った中国学の実現可能性について事例に基づきながら議論する。</p>	オムニバス方式・メディア

授 業 科 目 の 概 要			
(地域創生研究科 地域創生専攻 博士後期課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	地域システム特講	<p>(㉗ 荻野 晃/1回) 冷戦終結とグローバル化の進展から30年以上を経た現在の国際社会への理解を深めることを目的とする。具体的には、カネ・モノ・ヒト・サービスの移動がもたらした問題点として、国際テロ、移民・難民、先進国でのポピュリズムの台頭と政党システムの変容に焦点をあてる。さらに、今日の新型コロナウイルスのパンデミック状況が国際政治におよぼした影響について考察する。</p> <p>(㉘ 福島 涼史/1回) 人口減少という地域課題に因應するために鍵となる関係人口の拡大には、近隣諸国からの観光、巡礼、留学、就労等を目的にした来訪、中期滞在、移住が期待される。そこで、法学の分野からのアプローチとして、グローバル社会における越境移動の国際法上のルール・慣行、ならびに、日本の入国管理体制の現状を把握することを目指す。その上で、受け入れ側の準備も含めて、円滑な国際移動・移住の枠組みを把握・提案する能力を養う。</p> <p>(㉙ 賈 曦/1回) 新しい情報技術の進展により、情報環境の変容と共にメディアのエコシステムも大きな転換を迎えている。その中に地域メディアの変容に注目し、地域メディア論及び地域情報化論の展開を整理した上、ニューメディア時代における地域メディアの位置付け、さらに情報力及び情報発信力を多層なメディア間のネットワークの視点から考察し、地域メディアの将来の可能性などを検討する。</p> <p>(① 関谷 融/1回) 我が国の戦後社会における教養教育(国民の知)の内容と枠組構造(フレーミング)の解析への導入として、各期の『学習指導要領』に埋め込まれた学力とりわけ教育メディア活用力の内容と枠組みを系統樹構造化して俯瞰し、学校教育や社会教育の現場で地域メディア等の内容及びそれらを活用することの意義、普及・活用法がどのように志向されてきたかを考察する。</p> <p>(⑤ 大塚 一徳/2回) (1)自身のワーキングメモリ容量についての適切なメタ認知は、認知症の予防と認知症の啓発に重要な役割を果たす。本講義では、認知の中核機能であるワーキングメモリの機能及び個人差と、認知的加齢がわれわれの記憶に及ぼす影響について概説し、出席者どうして意見交換を行う。 (2)グローバル社会・ネットワーク社会・人間社会の観点から、認知科学などに関連する社会・人間科学領域のアプローチによって地域社会に関する研究について受講者各自が全体的視野からの総括を行い、かつ理解を深化させることを目指す。</p> <p>(④ 大重 育美/1回) 家族の個人化が進行していく中で、安心な子育て環境には地域とのつながりが影響してくる。まさに個人化したネットワークが地域社会とどのように交差するかである。本講義では、地域特性を考慮した家族間のネットワークのあり方、地域ネットワークのあり方について出席者間のディスカッションを通して多角的に探究する。</p> <p>(⑨ 橋本(松本) 優花里/1回) 臨床現場における支援においては、支援を要する内容についての適切なアセスメントが重要となる。本講義では、受講生の興味の対象となる支援とその課題について共有するとともに、課題解決に向けたアセスメントや支援手法について、認知心理学、神経心理学、臨床心理学、教育心理学の立場から考えていく。</p>	オムニバス方式・メディア

授 業 科 目 の 概 要			
(地域創生研究科 地域創生専攻 博士後期課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	情報セキュリティ特講	<p>(概要) 地域課題の解決のための基盤技術である情報セキュリティの観点から適用する6つの主題について基礎理解を深化させる。各主題においては、地域課題への適用を念頭に置いて講義をすすめる。各主題は以下の通りである。</p> <p>(A) ネットワークセキュリティ、(B) 暗号応用、(C) 生体認証、(D) 時系列データ解析、(E) セキュリティバイデザイン、(F) 制御セキュリティ</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (㊸) 小林 信博/2回 制御セキュリティにおける高度な対策手法について学び、地域課題の解決につながる応用力を養う。 (1) セキュリティ領域における制御セキュリティの適用領域と、安全・安心な地域社会の形成において制御セキュリティが果たすべき役割について理解する。 (2) 制御セキュリティ特有のセキュリティ機能、課題およびセキュリティ対策について理解し、攻撃事例・対策事例について学び、地域課題の解決に向けた技術の活用能力を養う。</p> <p>(㊹) 星野 文学/2回 暗号の数理、実装、および応用を地域課題を通して学ぶ。 (1) 離島医療などの地域社会特有の通信需要を情報セキュリティの観点から理解し、対策の基本である対称鍵暗号および鍵共有等を学ぶ。 (2) 暗号応用(1)に引き続き、対策の基本である公開鍵、本人認証、及び、デジタル署名等を学ぶ。</p> <p>(㊺) 岡田 雅之/3回 インターネット基盤を構成する仕組みを高度な内容と合わせて解説し、基盤を守るセキュリティを学習する。 (1) インターネット番号資源の管理を演習を含め学び、インターネットに接続する地域としての特性を考慮しつつ、大規模ネットワークのセキュリティを扱う。 (2) グローバルインターネットと地域折り返しのトラフィックの違いをセキュリティの観点から解説し学ぶ。 (3) 分散型サービス不能攻撃(DDoS攻撃)の現状を学び、エンドネットワークとしての地域特性を解説する。</p> <p>(㊻) 日下部 茂/2回 地域課題解決も例題にセキュリティバイデザインを学ぶ。 (1) セキュリティバイデザインの観点から、プロセスのモデリングについて学ぶ。地域課題解決を例題にシステムエンジニアリングでのモデリングについて学ぶ。 (2) セキュリティバイデザインの観点から、地域課題解決を例題に厳密な仕様の記述に効果的な数理的モデリングについて学ぶ。</p> <p>(㊼) 喜多 義弘/2回 生体情報から本人を識別する高度な手法について学びつつ、生体認証分野における地域課題を解決へつなげるための能力を身につける。 (1) 生体認証の基本的な概念を中心に、生体認証の手法や地域社会における取り組みについて学ぶ。 (2) 生体認証にて本人の識別に用いる機械学習法について学び、その課題を含む地域課題の解決法についてディスカッションを行う。</p> <p>(㊽) 島 成佳/2回 セキュリティインシデント対応の課題と対応の科学的アプローチについて学ぶ。 (1) セキュリティインシデントの管理運用におけるインシデントレスポンの現状について解説する。 (2) セキュリティインシデントの管理運用における課題とその対処の科学的アプローチについて解説する。</p> <p>(㊾) 齋藤 正也/2回 時系列解析手法の数理および実装を適時地域課題を通して学ぶ。 (1) 時系列解析に用いる基本的なモデルおよび適時地域課題への適用事例を学ぶ。特に、モンテカルロ法での実装に力点を置き、既存のシミュレーションモデルをプラグインすることで全体の解析系を構成できることを理解させる。 (2) 事前分布の設計やアルゴリズムの並列化など推定性能を確保するための実装上の技術を紹介する。</p>	オムニバス方式・メディア

授 業 科 目 の 概 要			
(地域創生研究科 地域創生専攻 博士後期課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	人間情報科学特講	<p>(概要) 地域情報工学における人間中心システムの構築のための技術要素として人間情報科学における5つの主題について基礎理解を深化させる。</p> <p>(A) 地理情報処理、(B) データベース (DB) 技術、(C) 観光情報サービス、(D) 色彩情報、(E) 感性情報処理</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(⑰ 平岡 透/3回)</p> <p>地理情報システムを用いた空間データ分析の原理を理解し、地域課題への応用力を身につける。</p> <p>(1) 空間データと地理情報システムについて学び、地域課題への適用事例を紹介する。</p> <p>(2) 点パターン分析とネットワーク分析について学び、地域課題への適用事例を紹介する。</p> <p>(3) 空間相関分析と空間補間について学び、地域課題への適用事例を紹介する。</p> <p>(⑱ ソムチャイ チャットウィチェンチャイ/3回)</p> <p>研究者として、従来のデータベース技術と最新のデータベース技術を包括的に理解し、研究やビジネスの要求に適したデータベースシステムについて学修する。</p> <p>(1) DBシステムやデータモデルについて学ぶ。</p> <p>(2) 代表的な設計図 (ER図) によるDB設計・DB構築について、地域の課題への適用例を交えて学ぶ。</p> <p>(3) DB標準言語 (SQL) とその他の方法でのDBデータ照会について、地域の課題への適用例を交えて学ぶ。</p> <p>(⑲ 吉村 元秀/3回)</p> <p>観光サービスに付加価値を提案するための情報工学的アプローチを学ぶ。</p> <p>(1) 観光サービスマーケティングについて扱う。</p> <p>(2) 観光サービスデザインについて扱う。</p> <p>(3) これからの観光サービスの提案・演習を行う。</p> <p>(⑳ 片山 徹也/3回)</p> <p>色彩に対する人間の認識の情報科学による分析と把握について学修する。</p> <p>(1) 色知覚のメカニズム、色彩調和論、表色系とカラースペース、色覚特性等、色彩情報に係る主要理論を俯瞰し、地域における課題事例を紹介する。</p> <p>(2) デジタル空間における色彩情報の取扱手法について、色度測定、カラープロファイル等を用いて習得し、地域課題に対する活用法を紹介する。</p> <p>(3) 色彩情報が人間に及ぼす影響を分析するためのアプローチ方法として、印象評価データの定量化と解析について学び、地域課題への適用方法を紹介する。</p> <p>(㉑ 飛谷 謙介/3回)</p> <p>人間の感性を客観的に取扱う種々の心理学的・数理的手法を学修する。また、当該手法による地域社会におけるQOL向上を促す方法について学ぶ。</p> <p>(1) 感覚・感性を測定するための心理学的手法について、また、感性の指標化・定量化を目的とした測定データに対する統計解析手法についてそれぞれ学ぶ。</p> <p>(2) 定量化した感性と対象の物理量との関係性をモデル化する機械学習手法について学ぶ。</p> <p>(3) これまでに学んだ感性情報処理の知識を用い、地域社会におけるQOL (生活の質) に直結する心の豊かさ (感性価値) をもたらす方法について、実例を交え学ぶ。</p>	オムニバス方式・メディア

授 業 科 目 の 概 要			
(地域創生研究科 地域創生専攻 博士後期課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	基礎栄養科学特講	<p>(概要) 基礎栄養科学分野を担当する全教員がその専門的な立場からオムニバス方式で自分の専門領域について講義し、「健康と栄養科学・生命科学」に関する基礎研究領域についての幅広い高度な専門領域の理解を深めることによって、特別研究（Ⅰ～Ⅲ）の中で行う研究の位置づけや他の研究との関連性をより明確にすると共に、研究者としての資質向上に資することを目的とする。さらにこれらの各専門領域の基礎研究が地域の健康維持・増進や活性化にどのように貢献しているかについての事例の提示やディスカッションを含めた講義も行う。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>⑳ 松澤 哲宏/2回 栄養健康科学における食品衛生学分野の研究手法や研究動向および地域の活性化につながる方策について基礎研究の側面から考究する。</p> <p>㉑ 柴崎 貢志/2回 栄養健康科学における細胞生化学分野の研究手法や研究動向および地域の活性化につながる方策について基礎研究の側面から考究する。</p> <p>㉒ 古場 一哲/2回 栄養健康科学における食品機能学分野の研究手法や研究動向および地域の活性化につながる方策について基礎研究の側面から考究する。</p> <p>㉓ 倉橋 拓也/2回 栄養健康科学における有機化学分野の研究手法や研究動向および地域の活性化につながる方策について基礎研究の側面から考究する。</p> <p>㉔ 城内 文吾/2回 栄養健康科学における代謝栄養学分野の研究手法や研究動向および地域の活性化につながる方策について基礎研究の側面から考究する。</p> <p>㉕ 駿河 和仁/2回 栄養健康科学における栄養生理学分野の研究手法や研究動向および地域の活性化につながる方策について基礎研究の側面から考究する。</p> <p>㉖ 田中 進/2回 栄養健康科学における解剖生理学分野の研究手法や研究動向および地域の活性化につながる方策について基礎研究の側面から考究する。</p> <p>⑳ 松澤 哲宏・㉑ 柴崎 貢志・㉒ 古場 一哲・㉓ 倉橋 拓也・㉔ 城内 文吾・㉕ 駿河 和仁・㉖ 田中 進/1回(共同) 各講義の中から、受講生が興味を持ったテーマを選び、その内容について自身の専門分野からの見解も含めまとめ上げ、プレゼンテーションおよびディスカッションを行う。</p>	オムニバス方式・共同(一部)・メディア

授 業 科 目 の 概 要			
(地域創生研究科 地域創生専攻 博士後期課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	実践栄養科学特講	<p>(概要) 実践栄養科学分野を担当する全教員がその専門的な立場からオムニバス方式で自分の専門領域について講義し、「健康と栄養、食生活、運動」に関する実践研究領域についての幅広い高度な専門領域の理解を深めることによって、特別研究（Ⅰ～Ⅲ）の中で行う研究の位置づけや他の研究との関連性をより明確にすると共に、研究者としての資質向上に資することを目的とする。さらにこれらの各専門領域の実践研究を推進する上でどのような地域との連携が必要かについての事例の提示やディスカッションを含めた講義も行う。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>⑳ 大曲 勝久／3回 栄養健康科学における臨床栄養学分野の研究手法や研究動向および地域の活性化につながる方策について実践研究の側面から考究する。</p> <p>㉑ 世羅 至子／3回 栄養健康科学における生活習慣病予防学分野の研究手法や研究動向および地域の活性化につながる方策について実践研究の側面から考究する。</p> <p>㉒ 飛奈 卓郎／2回 栄養健康科学における健康体力科学分野の研究手法や研究動向および地域の活性化につながる方策について実践研究の側面から考究する。</p> <p>㉓ 石見 百江／2回 栄養健康科学における栄養管理学分野の研究手法や研究動向および地域の活性化につながる方策について実践研究の側面から考究する。</p> <p>㉔ 本郷 涼子／2回 栄養健康科学における給食管理学分野の研究手法や研究動向および地域の活性化につながる方策について実践研究の側面から考究する。</p> <p>㉕ 竹内 昌平／2回 栄養健康科学における栄養疫学分野の研究手法や研究動向および地域の活性化につながる方策について実践研究の側面から考究する。</p> <p>⑳ 大曲 勝久・㉑ 世羅 至子・㉒ 飛奈 卓郎・㉓ 石見 百江・㉔ 本郷 涼子・㉕ 竹内 昌平・㉖ 駿河 和仁／1回 (共同) 各講義の中から、受講生が興味を持ったテーマを選び、その内容について自身の専門分野からの見解も含めまとめ上げ、プレゼンテーションおよびディスカッションを行う。</p>	オムニバス方式・共同（一部）・メディア

授 業 科 目 の 概 要			
(地域創生研究科 地域創生専攻 博士後期課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究指導科目	特別研究 I	<p>(概要) 研究指導教員による継続的な研究指導体制をとり、大学院生個々の研究テーマを設定するにあたり、関連する学問分野に関する高度な知識と解析手法の集積を図り、研究者としての基本的な資質を身につけるための指導を行う。具体的には、ゼミ形式により専門分野の最新の研究成果を掲載した学術論文などを精読し、研究成果の理解および課題発見能力を養う。また、研究成果の学会等でのプレゼンテーション能力・ディスカッション能力および学術論文の作成能力を養う。また、大学院生個々の研究計画に対応する指導を中心として、研究課題の設定、研究計画の立案、調査・実験、分析に向けた研究指導を行う。</p> <p>(① 関谷 融) 特別研究 I では、受講生の研究テーマ設定にあたり、研究者としての基本的な資質を身につけるため、メディア利活用の諸相を多方面から読み解きながら各種メディアの活用法に関する高度な知識と分析手法の集積を目指す。また、受講生の研究計画に応じた研究課題の設定、研究計画の立案に向けた研究指導を行う。</p> <p>(2 祁 建民) 近現代中国の政治社会に関する高度な知識と分析手法の集積を図り、受講生の研究テーマ設定にあたり研究者としての基本的な資質を身につけるための指導を行う。また、受講生の研究計画に応じて研究課題の設定、研究計画の立案、調査、分析、研究成果の発表に向けた研究指導を行う。</p> <p>(② 森田 均) メディアやモビリティを含むネットワーク社会に関する高度な知識と分析手法の集積を図り、受講生の研究テーマ設定にあたり研究者としての基本的な資質を身につけるための指導を行う。また、受講生の研究に応じた研究課題の設定、研究計画の立案、調査・実験、分析、研究成果の発表に向けた研究指導を行う。</p> <p>(4 山本 周) 本講義は研究指導教員による継続的な研究指導体制をとり、大学院生個々の研究計画に対応する指導を中心として、博士の学位に相応しいレベルの研究論文作成を行うことができるよう研究指導を行う。具体的には、中国文化について多角的に講ずる。学生達の中国文化に対する理解をより深めて、ゼミナールでのディスカッションや学術誌の投稿論文の作成、学会の発表など様々な実践的な訓練を通して高度な研究能力の養成を図る。</p> <p>(5 鴻上 喜芳) リスクマネジメントや損害保険、生命保険に関する高度な知識と分析手法の集積を図り、受講生の研究テーマ設定にあたり研究者としての基本的な資質を身につけるための指導を行う。また、受講生の研究計画に応じた研究課題の設定、研究計画の立案、調査、分析、研究成果の発表に向けた研究指導を行う。</p> <p>(③ 谷澤 毅) 近世・近代ヨーロッパの流通・経済史に関する高度な知識と分析手法の集積を図り、受講生の研究テーマ設定にあたり研究者としての基本的な資質を身につけるための指導を行う。また、受講生の研究計画に応じた研究課題の設定、研究計画の立案、調査、分析、研究成果の発表に向けた研究指導を行う。</p> <p>(7 山本 裕) 「海運経済研究」やMaritime Policy & Management, Maritime Economics & Logisticsなどの専門分野の最新の研究成果を掲載した学術論文などを精読し、海運経済や港湾経済などの国際交通研究に関する成果の理解および課題発見能力を養う。また、研究成果の学会等でのプレゼンテーション能力・ディスカッション能力および学術論文の作成能力を養う。さらに、大学院生個々の研究計画に対応する指導を中心として、研究課題の設定、研究計画の立案、調査・実験、分析に向けた研究指導を行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(地域創生研究科 地域創生専攻 博士後期課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究指導科目	特別研究 I	<p>(④ 大重 育美) 臨床看護学全般、さらに小児保健を含めた研究テーマを探究するための応用的な研究実践力を基に博士論文を完成できる力を身につける。必要に応じて他領域の教員からの指導を受けながら、研究成果の学会や学術論文への発表などを通して、高度な研究能力の養成を図る。</p> <p>(⑤ 大塚 一徳) 地域における加齢問題の対策に寄与する認知心理学、とくにワーキングメモリに関する高度な知識と分析手法の集積を図り、受講生の研究テーマ設定にあたり研究者としての基本的な資質を身につけるための指導を行う。また、受講生の研究計画に応じて研究課題の設定、研究計画の立案、調査・実験、分析、研究成果の発表に向けた研究指導を行う。</p> <p>(⑥ 宮地 晃輔) 組織会計システムに関する高度な知識と分析手法の集積を図り、受講生の研究テーマ設定にあたり研究者としての基本的な資質を身につけるための指導を行う。また、受講生の研究計画に応じて研究課題の設定、研究計画の立案、調査、分析、研究成果の発表に向けた研究指導を行う。</p> <p>(11 矢野 生子) グローバル化がもたらす国内外の経済への影響に関する高度な知識と分析手法の集積を図り、受講生の研究テーマ設定にあたり研究者としての基本的な資質を身につけるための指導を行う。また、受講生の研究計画に応じて研究課題の設定、研究計画の立案、調査・実験、分析、研究成果の発表に向けた研究指導を行う。</p> <p>(⑦ 荻野 晃) 近現代ヨーロッパの政治社会に関する高度な知識と分析手法の集積を図り、受講生の研究テーマ設定にあたり研究者としての基本的な資質を身につけるための指導を行う。また、受講生の研究計画に応じて研究課題の設定、研究計画の立案、調査、分析、研究成果の発表に向けた研究指導を行う。</p> <p>(⑨ 橋本(松本) 優花里) 地域社会における臨床の知としての認知心理学に関する高度な知識と分析手法の集積を図り、受講生の研究テーマ設定にあたり研究者としての基本的な資質を身につけるための指導を行う。また、受講生の研究計画に応じて研究課題の設定、研究計画の立案、調査、分析、研究成果の発表に向けた研究指導を行う。</p> <p>(⑩ 車 相龍) 地域計画論に関する高度な知識と分析手法の集積を図り、受講生の研究テーマ設定にあたり研究者としての基本的な資質を身につけるための指導を行う。また、受講生の研究計画に応じて研究課題の設定、研究計画の立案、調査、分析、研究成果の発表に向けた研究指導を行う。</p> <p>(16 松尾 晋一) 日本近世の政治・外交史に関する高度な知識と分析手法の集積を図り、受講生の研究テーマ設定にあたり研究者としての基本的な資質を身につけるための指導を行う。また、大学院生個々の研究計画に対応する指導を中心として、研究課題の設定、研究計画の立案、調査、分析に向けた研究指導を行う。</p> <p>(⑪ ソムチャイ チャットウィチェンチャイ) 構造化・半構造化データの横断検索手法の要素技術の調査追究を指導する。</p> <p>(⑫ 日下部 茂) 情報通信技術を利用するシステムのリスク要因とその対策について調査追究を指導する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
（地域創生研究科 地域創生専攻 博士後期課程）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究指導科目	特別研究 I	<p>(13) 小林 信博) 情報工学分野、とくに現実世界とサイバー空間の融合する領域における制御システム、制御機器、利用者等に対するサイバー攻撃手法の解明および正常動作の維持・確保に寄与する制御システムセキュリティ技術の開発を目指して、安全性評価実験および検証実験を通して研究指導を行う。研究指導教員による継続的な研究指導体制をとり、学生個々の研究テーマを設定するにあたり、関連する学問分野に関する高度な知識の集積を図り、研究者としての基本的な資質を身につけるための指導を行う。具体的には、専門分野の最新の研究成果を掲載した学術論文などを精読し、研究成果の理解および課題発見能力を養う。</p> <p>(14) 吉村 元秀) 観光情報サービスへのICT応用を考えるまちづくり工学、とくに情報技術を応用したヒト・コト・モノを連動させる要素技術の調査追及と課題発掘、基盤システムの開発について指導する。</p> <p>(15) 片山 徹也) 情報技術を活用したデジタルコンテンツにおけるデザイン構成要素について先行研究の調査追及を指導する。</p> <p>(16) 星野 文学) 情報セキュリティ、特に暗号設計学および暗号解析学、の学問的発展への貢献を目指して、理論研究あるいは計算機実験を通して研究指導を行う。研究指導教員による継続的な研究指導体制をとり、大学院生個々の研究テーマを設定するにあたり、関連する学問分野に関する高度な知識と解析手法の集積を図り、研究者としての基本的な資質を身につけるための指導を行う。具体的には、ゼミ形式により専門分野の最新の研究成果を掲載した学術論文などを精読し、研究成果の理解および課題発見能力を養う。</p> <p>(17) 平岡 透) 画像工学や空間情報工学について、地域防災や地域活性化、ノンフォトリアリスティックレンダリングなどに活用するための要素技術の調査追及を指導する。</p> <p>(18) 島 成佳) 情報セキュリティマネジメント領域において、日々変化するサイバー攻撃に対抗する効果的・効率的なオペレーション手法の開発を目指して、①脅威の予兆を捉えサイバー攻撃に備える事前対策、②サイバー攻撃を受けている中の対処を行う事中対策、③サイバー攻撃を受けインシデント発生後の対処を行う事後対策の3つのフェーズのオペレーションに関して、人・制度・システムの3つの観点を適切に組み合わせる対策の研究において、研究課題の設定、研究計画の立案および研究実行（解決手法の立案・設計・実装・評価）に向けた研究指導を行うため、関連する学問分野に関する高度な知識と解決手法の集積を図り、大学院生個々の研究計画に対応する指導を中心として、研究課題の設定、研究計画の立案、調査・分析に向けた研究指導を行う。</p> <p>(19) 岡田 雅之) インターネット基盤を運用し続けるための様々な要素技術の調査追及を指導する。</p> <p>(20) 大曲 勝久) 臨床栄養学、とくに非アルコール性脂肪肝炎の発症機序の解明および発症・進展の抑制に寄与する栄養療法の開発を目指して、研究課題の設定、研究計画の立案および研究実行（調査・実験、分析）に向けた研究指導を行うため、関連する学問分野に関する高度な知識と解析手法の集積を図り、大学院生個々の研究計画に対応する指導を中心として、研究課題の設定、研究計画の立案、調査・実験、分析に向けた研究指導を行う。</p> <p>(21) 古場 一哲) 脂質代謝をキーワードに、食品～食品成分のメタボリックシンドローム改善作用の解明を目指して、研究課題の設定、課題解決に向けた実験計画（おもに動物実験）の立案、実験の遂行に向けた研究指導を行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
（地域創生研究科 地域創生専攻 博士後期課程）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究指導科目	特別研究 I	<p>(㉔ 世羅 至子) 現在高齢糖尿病患者の増加が報告されている。これまで、高齢糖尿病患者においては、サルコペニアなどの老年症候群の有病率が高いことや低栄養が話題になっている。生活習慣病医療学、病態栄養学の観点から、高齢糖尿病患者の栄養状態やサルコペニアについて、食事摂取量や運動習慣の有無、糖尿病の病態との関連などについて横断的および継続的に調査を行い、これらに影響を及ぼす因子を検討し、糖尿病患者のサルコペニアや低栄養状態の改善に寄与できる研究指導を行う。</p> <p>(㉕ 柴崎 貢志) 細胞生化学の視点から、生物の生命活動を物質の化学変化として説明することを目的として、特に脳神経系細胞の活動を体温・代謝の視点から調べ、脳疾患の病態解明、創薬、新規治療法の開発を目指すための研究課題の設定、課題解決に向けた実験計画の立案、実験の遂行に向けた研究指導を行う。</p> <p>(㉖ 倉橋 拓也) 錯体化学や有機化学を基盤に、空気中の酸素ガスを消毒や脱色に利用可能な化学試薬として活用することを目指して、研究課題の設定、研究計画の立案およびこれまでにない独自の原理に基づく新規装置の開発や空気酸化反応実験の解析も視野に入れた研究指導を行う。</p> <p>(㉗ 田中 進) 形態機能学ならびに再生生物学をテーマに組織再生や正常機能発現、および恒常性維持に寄与する因子の同定ならび代謝性疾患の病態解明、診断法の開発、新規治療法を目指して、培養細胞実験、動物実験あるいは臨床研究を通して研究指導を行う。</p> <p>(㉘ 賈 曦) 国際社会におけるメディアを媒介としたコミュニケーションに関する高度な知識と分析手法の集積を図り、受講生の研究テーマ設定にあたり研究者としての基本的な資質を身につけるための指導を行う。また、受講生の研究に応じて研究課題の設定、研究計画の立案、調査・実験、分析、研究成果の発表に向けた研究指導を行う。</p> <p>(㉙ 齋藤 正也) 経時変化をとまなう現象を対象とした力学的なモデルの調査追究を指導する。</p> <p>(㉚ 飛谷 謙介) 感性情報処理技術および機械学習技術の先行研究の調査追究を指導する。</p> <p>(㉛ 駿河 和仁) 栄養生理学の視点から、主にビタミンAおよびβ-カロテンの吸収や代謝機能が、どのような生理的要因(食事要因、環境要因など)で変動するのか、さらにそのメカニズムを解明することを目指し、研究課題の設定、課題解決に向けた実験計画(生化学的・分子生物化学的手法を用いた動物実験や培養細胞実験を中心とした)の立案および実験の遂行に向けた研究指導を行う。</p> <p>(㉜ 松澤 哲宏) 食品衛生学、特に食品汚染の原因となる真菌に関する研究指導を行う。各自で設定した研究テーマについて研究指導を行う。将来の就職なども視野に入れ、研究課題の設定、研究計画の立案、実験および結果の分析に向けた研究指導を行う。</p> <p>(㉝ 飛奈 卓郎) 生活習慣病やフレイルの予防と改善に適した運動と栄養とのバランスを提案する方法を探索することを目指し、研究課題の設定、課題解決に向けた研究計画の立案および研究遂行に向けた指導を研究行う。具体的には、血管系疾患やガンのリスクと密接に関係する持続的能力を効率的に向上させる方法の開発や、運動習慣支援に有効な方法の開発の観点からは安定同位体を用いた胃内容排出を中心に、消化吸収の観点から研究指導を行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
（地域創生研究科 地域創生専攻 博士後期課程）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究指導科目	特別研究Ⅰ	<p>㊦ 城内 文吾 代謝栄養学の視点（栄養素の消化・吸収、体内動態および臓器内代謝）から、食環境による非感染性疾患の発症予防およびそのメカニズム解明を目指して、研究課題の設定、課題解決に向けた実験計画の立案および実験の遂行に向けた研究指導を行う。</p> <p>㊧ 石見 百江 栄養管理学、健康教育の視点から人々の健康の維持増進・疾病の重症化予防に繋がる健康教育の実現に向けた計画・実施・評価を目指し、栄養生理学の観点を取り入れた研究指導を行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(地域創生研究科 地域創生専攻 博士後期課程)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究 指導 科目	特別研究Ⅱ	<p>(概要) 特別研究Ⅰに引き続き、研究指導教員による継続的な研究指導体制をとり、関連する学問分野に関する高度な知識と解析手法の集積を前提として、博士の学位に相応しいレベルの研究論文作成を行うことができるよう研究指導を行う。また、必要に応じて他領域の教員からの指導を受け、幅広い研究領域を有機的に統合しながら質の高い研究指導を行う。</p> <p>(① 関谷 融) 特別研究Ⅱでは、特別研究Ⅰの成果を引き継いで、研究テーマをさらに明確化させ、それに沿った研究計画を立て、特別研究Ⅰで学んだリサーチメソッドを活用し、博士論文の作成に取り組みます。また、論文が計画通り進んでいるか定期的に指導やアドバイスをを行い、論文を完成させるまでの過程の指導を通じて、博士の学位に相応しい水準の論文が執筆可能となるよう研究指導を行う。必要に応じて他領域の教員からの指導を受け、幅広い研究領域を有機的に統合しながら質の高い研究指導を行う。</p> <p>(2 祁 建民) 特別研究Ⅰに引き続き、近現代中国の政治社会に関する高度な知識と分析手法の集積を前提として、博士の学位に相応しい水準の論文が執筆可能となるよう研究指導を行う。必要に応じて他領域の教員からの指導を受け、幅広い研究領域を有機的に統合しながら質の高い研究指導を行う。</p> <p>(② 森田 均) 特別研究Ⅰに引き続き、メディアやモビリティを含むネットワーク社会に関する高度な知識と分析手法の集積を前提として、博士の学位に相応しい水準の論文が執筆可能となるよう研究指導を行う。必要に応じて他領域の教員からの指導を受け、幅広い研究領域を有機的に統合しながら質の高い研究指導を行う。</p> <p>(4 山本 周) 特別研究Ⅰに引き続き、博士論文作成のための準備段階として、大学院生個々の研究テーマの設定について、中国文化に関する高度な知識と幅広く情報収集、分析手法など基本的な資質の身に付けるため、研究領域を有機的に統合しながら質の高い研究指導を行う。</p> <p>(5 鴻上 喜芳) 特別研究Ⅰに引き続き、リスクマネジメントや損害保険、生命保険に関する高度な知識と分析手法の集積を前提として、博士の学位に相応しい水準の論文が執筆可能となるよう研究指導を行う。必要に応じて他領域の教員からの指導を受け、幅広い研究領域を有機的に統合しながら質の高い研究指導を行う。</p> <p>(③ 谷澤 毅) 特別研究Ⅰに引き続き、近世・近代ヨーロッパの流通・経済史に関する高度な知識と分析手法の集積を前提として、博士の学位に相応しい水準の論文が執筆可能となるよう研究指導を行う。必要に応じて他領域の教員からの指導を受け、幅広い研究領域を有機的に統合しながら質の高い研究指導を行う。</p> <p>(7 山本 裕) 特別研究Ⅰに引き続き、研究指導教員による継続的な研究指導体制をとり、国際交通に関連する学問分野に関する高度な知識と解析手法の集積を前提として、英文ジャーナルの読解を通して語学力の修得も継続しながら、博士の学位に相応しいレベルの研究論文作成を行うことができるよう研究指導を行う。また、必要に応じて他領域の教員からの指導を受け、さらに、学会発表の機会なども持たせ、幅広い研究領域を有機的に統合しながら質の高い研究指導を行う。</p> <p>(④ 大重 育美) 特別研究Ⅰに引き続き、臨床看護学全般、さらに小児保健を含めた研究テーマを探究するための応用的な研究実践力を基に博士論文を完成できる力を身に付ける。必要に応じて他領域の教員からの指導を受けながら、研究成果の学会や学術論文への発表などを通して、高度な研究能力の養成を図る。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(地域創生研究科 地域創生専攻 博士後期課程)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究 指導 科目	特別研究Ⅱ	<p>(⑤ 大塚 一徳) 特別研究Ⅰに引き続き、地域における加齢問題の対策に寄与する認知心理学、とくにワーキングメモリに関する高度な知識と分析手法の集積を前提として、博士の学位に相応しい水準の論文が執筆可能となるよう研究指導を行う。必要に応じて他領域の教員からの指導を受け、幅広い研究領域を有機的に統合しながら質の高い研究指導を行う。</p> <p>(⑥ 宮地 晃輔) 特別研究Ⅰに引き続き、組織会計システムに関する高度な知識と分析手法の集積を前提として、博士の学位に相応しい水準の論文が執筆可能となるよう研究指導を行う。必要に応じて他領域の教員からの指導を受け、幅広い研究領域を有機的に統合しながら質の高い研究指導を行う。</p> <p>(11 矢野 生子) 特別研究Ⅰに引き続き、グローバル化がもたらす国内外の経済への影響に関する高度な知識と分析手法の集積を前提として、博士の学位に相応しい水準の論文が執筆可能となるよう研究指導を行う。必要に応じて他領域の教員からの指導を受け、幅広い研究領域を有機的に統合しながら質の高い研究指導を行う。</p> <p>(⑦ 荻野 晃) 特別研究Ⅰに引き続き、近現代ヨーロッパの政治社会に関する高度な知識と分析手法の集積を前提として、博士の学位に相応しい水準の論文が執筆可能となるよう研究指導を行う。必要に応じて他領域の教員からの指導を受け、幅広い研究領域を有機的に統合しながら質の高い研究指導を行う。</p> <p>(⑨ 橋本 (松本) 優花里) 特別研究Ⅰに引き続き、地域社会における臨床の知としての認知心理学に関する高度な知識と分析手法の集積を前提として、博士の学位に相応しい水準の論文が執筆可能となるよう研究指導を行う。必要に応じて他領域の教員からの指導を受け、幅広い研究領域を有機的に統合しながら質の高い研究指導を行う。</p> <p>(⑩ 車 相龍) 特別研究Ⅰに引き続き、地域計画論に関する高度な知識と分析手法の集積を前提として、博士の学位に相応しい水準の論文が執筆可能となるよう研究指導を行う。必要に応じて他領域の教員からの指導を受け、幅広い研究領域を有機的に統合しながら質の高い研究指導を行う。</p> <p>(16 松尾 晋一) 特別研究Ⅰに引き続き、日本近世の政治・外交史に関する高度な知識と分析手法の集積を前提として、博士の学位に相応しい水準の論文が執筆可能となるよう研究指導を行う。必要に応じて他領域の教員からの指導を受け、幅広い研究領域を有機的に統合しながら質の高い研究指導を行う。</p> <p>(⑪ ソムチャイ チャットウィチェンチャイ) 構造化・半構造化データの横断検索手法の調査追及と課題発掘を指導する。</p> <p>(⑫ 日下部 茂) 情報通信技術を利用するシステムのリスク要因とその対策について、先行研究の調査追及と、情報通信技術の発展動向を踏まえた課題発掘を指導する。</p> <p>(⑬ 小林 信博) 特別研究Ⅰに引き続き、研究指導教員による継続的な研究指導体制をとり、関連する学問分野に関する高度な知識の集積を前提として、博士の学位に相応しいレベルの研究論文作成を行うことができるよう研究指導を行う。また、必要に応じて他領域の教員からの指導を受け、幅広い研究領域を有機的に統合しながら質の高い研究指導を行う。</p> <p>(⑭ 吉村 元秀) 観光情報サービスへのICT応用を考えるまちづくり工学、とくに情報技術を応用したヒト・コト・モノを運動させるサービスの実践研究について先行事例の調査追及と課題発掘、実システムの開発について指導する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(地域創生研究科 地域創生専攻 博士後期課程)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究 指導 科目	特別研究Ⅱ	<p>(15) 片山 徹也) デジタルコンテンツのユーザビリティ及びアクセシビリティの向上に寄与するデザイン構成要素について先行研究の調査追及と課題発掘を指導する。</p> <p>(16) 星野 文学) 特別研究Ⅰに引き続き、研究指導教員による継続的な研究指導体制をとり、関連する学問分野に関する高度な知識と解析手法の集積を前提として、博士の学位に相応しいレベルの研究論文作成を行うことができるよう研究指導を行う。また、必要に応じて他領域の教員からの指導を受け、幅広い研究領域を有機的に統合しながら質の高い研究指導を行う。</p> <p>(17) 平岡 透) 要素技術を用いた、地域防災や地域活性化などの実社会の課題解決およびノンフォトリアリスティックレンダリングによる非写実的な画像の生成について先行研究の調査追及と課題発掘を指導する。</p> <p>(18) 島 成佳) 特別研究Ⅰで設定した情報セキュリティマネジメントに関わる研究テーマに対して、解決手法の立案・設計・実装・評価を遂行し、その成果を解釈・考察できるように研究指導を行う。関連する学問分野に関する高度な知識と解決手法の集積を前提として、博士の学位に相応しいレベルの研究論文作成を行うことができるよう研究指導を行う。また、必要に応じて他領域の教員からの指導を受け、幅広い研究領域を有機的に統合しながら質の高い研究指導を行う。</p> <p>(19) 岡田 雅之) インターネット基盤を運用し続けるための要素技術に加えPKIや電子署名などによるデジタルアイデンティティの取扱いについて先行研究の調査追及と課題発掘を指導する。</p> <p>(20) 大曲 勝久) 特別研究Ⅰで設定した臨床栄養学に関わる研究テーマに対して、調査・実験を遂行し、その成果を解釈・考察できるように研究指導を行う。関連する学問分野に関する高度な知識と解析手法の集積を前提として、博士の学位に相応しいレベルの研究論文作成を行うことができるよう研究指導を行う。また、必要に応じて他領域の教員からの指導を受け、幅広い研究領域を有機的に統合しながら質の高い研究指導を行う。</p> <p>(21) 古場 一哲) 特別研究Ⅰで設定した食品機能学に関わる研究テーマに対して、実験を遂行し、その成果を解釈・考察できるように研究指導を行う。</p> <p>(22) 世羅 至子) 特別研究Ⅰで設定した生活習慣病医療学・臨床栄養学に関わる研究テーマに対して、調査を遂行し、その成果を解釈・考察できるように研究指導を行う。</p> <p>(23) 柴崎 貢志) 特別研究Ⅰで設定した細胞生化学に関わる研究テーマに対して、実験を遂行し、その成果を解釈・考察できるように研究指導を行う。</p> <p>(24) 倉橋 拓也) 特別研究Ⅰで設定した有機化学に関わる研究テーマに対して、実験を遂行し、その成果を解釈・考察できるように研究指導を行う。</p> <p>(25) 田中 進) 特別研究Ⅰで設定した形態機能学・再生生物学に関わる研究テーマに対して、実験を遂行し、その成果を解釈・考察できるように研究指導を行う。</p> <p>(26) 賈 曦) 特別研究Ⅰに引き続き、国際社会におけるメディアを媒介としたコミュニケーションに関する高度な知識と分析手法の集積を前提として、博士の学位に相応しい水準の論文が執筆可能となるよう研究指導を行う。必要に応じて他領域の教員からの指導を受け、幅広い研究領域を有機的に統合しながら質の高い研究指導を行う。</p> <p>(28) 齋藤 正也) 経時変化をともなる現象を対象として、計算機シミュレーションを用いた統計分析手法について先行研究の調査追及と課題発掘を指導する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
（地域創生研究科 地域創生専攻 博士後期課程）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究 指導 科目	特別研究Ⅱ	<p>⑳ 飛谷 謙介) 感性情報処理技術および機械学習技術を用いた計算機による感性の理解を実現する種々の技術について先行研究の調査追究と課題発掘を指導する。</p> <p>㉑ 駿河 和仁) 特別研究Ⅰで設定した栄養生理学に関わる研究テーマに対して、実験を遂行し、その成果を解釈・考察できるように研究指導を行う。</p> <p>㉒ 松澤 哲宏) 特別研究Ⅰで設定した食品衛生学に関わる研究テーマに対して、実験を遂行し、その成果を解釈・考察できるように研究指導を行う。</p> <p>㉓ 飛奈 卓郎) 特別研究Ⅰで設定した運動生理学に関わる研究テーマに対して、調査・実験を遂行し、その成果を解釈・考察できるように研究指導を行う。</p> <p>㉔ 城内 文吾) 特別研究Ⅰで設定した代謝栄養学に関わる研究テーマに対して、実験を遂行し、その成果を解釈・考察できるように研究指導を行う。</p> <p>㉕ 石見 百江) 特別研究Ⅰで設定した栄養管理学・健康教育に関わる研究テーマに対して、調査・実験を遂行し、その成果を解釈・考察できるように研究指導を行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
（地域創生研究科 地域創生専攻 博士後期課程）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究 指導 科目	特別研究Ⅲ	<p>（概要）特別研究Ⅱに引き続き、研究指導教員による継続的な研究指導体制をとり、博士の学位に相応しいレベルの研究論文を完成することができるよう研究指導を行う。また、必要に応じて他領域の教員からの指導を受けながら、研究成果の学会や学術論文への発表などを通して、高度な研究能力の養成を図る。</p> <p>① 関谷 融 特別研究Ⅲでは、特別研究Ⅱの成果を土台として博士論文を完成させるよう適切なアドバイスやリサーチの仕方の指導を通して博士の学位に相応しいレベルの研究論文を完成することができるよう研究指導を行う。さらに、メディア研究に関する国内外の知見の進歩を考慮に入れるよう最新の研究論文・総説などを紹介させ、必要に応じて他領域の教員からの指導を受けながら、研究成果の学会や学術論文への発表などを通して、研究者として独り立ちできる能力を身に付けさせる。</p> <p>② 祁 建民 特別研究Ⅱに引き続き、近現代中国の政治社会に関する研究を通して博士の学位に相応しいレベルの研究論文を完成することができるよう研究指導を行う。また、必要に応じて他領域の教員からの指導を受けながら、研究成果の学会や学術論文への発表などを通して、高度な研究能力の養成を図る。</p> <p>③ 森田 均 特別研究Ⅱに引き続き、メディアやモビリティを含むネットワーク社会に関する研究を通して博士の学位に相応しいレベルの研究論文を完成することができるよう研究指導を行う。また、必要に応じて他領域の教員からの指導を受けながら、研究成果の学会や学術論文への発表などを通して、高度な研究能力の養成を図る。</p> <p>④ 山本 周 特別研究Ⅱに引き続き、研究成果の学会や学術論文への発表などを通して、高度な研究能力の養成を図る。博士号に相応しい学術価値の高い博士論文を完成に向けて、修正、改訂を繰り返し、作成された論文の内容を再検討と再確認を経て、最終チェックを行い、質の高い博士論文を完成できるように助言、指導する。</p> <p>⑤ 鴻上 喜芳 特別研究Ⅱに引き続き、リスクマネジメントや損害保険、生命保険に関する研究を通して博士の学位に相応しいレベルの研究論文を完成することができるよう研究指導を行う。また、必要に応じて他領域の教員からの指導を受けながら、研究成果の学会や学術論文への発表などを通して、高度な研究能力の養成を図る。</p> <p>⑥ 谷澤 毅 特別研究Ⅱに引き続き、近世・近代ヨーロッパの流通・経済史に関する研究を通して博士の学位に相応しいレベルの研究論文を完成することができるよう研究指導を行う。また、必要に応じて他領域の教員からの指導を受けながら、研究成果の学会や学術論文への発表などを通して、高度な研究能力の養成を図る。</p> <p>⑦ 山本 裕 特別研究Ⅱに引き続き、国際交通に関して研究指導教員による継続的な研究指導体制をとり、博士の学位に相応しいレベルの研究論文を完成することができるよう研究指導を行う。また、必要に応じて他領域の教員からの指導を受けながら、研究成果の学会や学術論文への発表などを通して、高度な研究能力の養成を図る。</p> <p>⑧ 大重 育美 特別研究Ⅱに引き続き、臨床看護学全般、さらに小児保健を含めた研究テーマを探究するための応用的な研究実践力を基に博士論文を完成できる力を身に着ける。必要に応じて他領域の教員からの指導を受けながら、研究成果の学会や学術論文への発表などを通して、高度な研究能力の養成を図る。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
（地域創生研究科 地域創生専攻 博士後期課程）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究 指導 科目	特別研究Ⅲ	<p>(⑤ 大塚 一徳) 特別研究Ⅱに引き続き、地域における加齢問題の対策に寄与する認知心理学、とくにワーキングメモリに関する研究を通して博士の学位に相応しいレベルの研究論文を完成することができるよう研究指導を行う。また、必要に応じて他領域の教員からの指導を受けながら、研究成果の学会や学術論文への発表などを通して、高度な研究能力の養成を図る。</p> <p>(⑥ 宮地 晃輔) 特別研究Ⅱに引き続き、組織会計システムに関する研究を通して博士の学位に相応しいレベルの研究論文を完成することができるよう研究指導を行う。また、必要に応じて他領域の教員からの指導を受けながら、研究成果の学会や学術論文への発表などを通して、高度な研究能力の養成を図る。</p> <p>(11 矢野 生子) 特別研究Ⅱに引き続き、グローバル化がもたらす国内外の経済への影響に関する研究を通して博士の学位に相応しいレベルの研究論文を完成することができるよう研究指導を行う。また、必要に応じて他領域の教員からの指導を受けながら、研究成果の学会や学術論文への発表などを通して、高度な研究能力の養成を図る。</p> <p>(⑦ 荻野 晃) 特別研究Ⅱに引き続き、近現代ヨーロッパの政治社会に関する研究を通して博士の学位に相応しいレベルの研究論文を完成することができるよう研究指導を行う。また、必要に応じて他領域の教員からの指導を受けながら、研究成果の学会や学術論文への発表などを通して、高度な研究能力の養成を図る。</p> <p>(⑨ 橋本（松本）優花里) 特別研究Ⅱに引き続き、地域社会における臨床の知としての認知心理学に関する研究を通して博士の学位に相応しいレベルの研究論文を完成することができるよう研究指導を行う。また、必要に応じて他領域の教員からの指導を受けながら、研究成果の学会や学術論文への発表などを通して、高度な研究能力の養成を図る。</p> <p>(⑩ 車 相龍) 特別研究Ⅱに引き続き、地域計画論に関する研究を通して博士の学位に相応しいレベルの研究論文を完成することができるよう研究指導を行う。また、必要に応じて他領域の教員からの指導を受けながら、研究成果の学会や学術論文への発表などを通して、高度な研究能力の養成を図る。</p> <p>(16 松尾 晋一) 特別研究Ⅱに引き続き、日本近世の政治・外交史に関する研究を通して博士の学位に相応しいレベルの研究論文を完成することができるよう研究指導を行う。また、必要に応じて他領域の教員からの指導を受けながら、研究成果の学会や学術論文への発表などを通して、高度な研究能力の養成を図る。</p> <p>(⑪ ソムチャイ チャットウィチェンチャイ) 構造化・半構造化データの横断検索手法の課題解決と発展的追究を指導する。</p> <p>(⑫ 日下部 茂) 情報通信技術を利用するシステムのリスク要因とその対策について、先行研究の調査追究と、情報通信技術の発展動向を踏まえた課題解決と発展的追究を指導する。</p> <p>(⑬ 小林 信博) 特別研究Ⅱに引き続き、研究指導教員による継続的な研究指導体制をとり、博士の学位に相応しいレベルの研究論文を完成することができるよう研究指導を行う。また、必要に応じて他領域の教員からの指導を受けながら、研究成果の学会や学術論文への発表などを通して、高度な研究能力の養成を図る。</p> <p>(⑭ 吉村 元秀) 観光学、社会学、システム科学、認知科学、心理学、情報工学などを含む横断的・学際的な学問であるまちづくり工学に関する先行事例の調査追究と課題発掘を通して、ヒト・コト・モノを高度に連動させる実システムの開発について指導する。</p> <p>(⑮ 片山 徹也) デジタルコンテンツのユーザビリティ及びアクセシビリティの向上に寄与するデザイン構成要素について先行研究の課題解決と発展的追究を指導する。</p> <p>(⑯ 星野 文学) 特別研究Ⅱに引き続き、研究指導教員による継続的な研究指導体制をとり、博士の学位に相応しいレベルの研究論文を完成することができるよう研究指導を行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
（地域創生研究科 地域創生専攻 博士後期課程）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究 指導 科目	特別研究Ⅲ	<p>(17) 平岡 透) 要素技術を用いた、地域防災や地域活性化などの実社会の課題解決およびノンフォトリアリスティックレンダリングによる非写実的な画像の生成について先行研究の調査追及と課題発掘を指導する。</p> <p>(18) 島 成佳) 特別研究Ⅱで得られた研究の遂行結果をまとめて、学会発表、学術論文投稿によって専門分野の研究者の評価を受けて研究の遂行結果を再検証をし、必要に応じ追加の研究を行い、その成果の学会発表、学術論文投稿を通して学位論文の完成に向けた研究指導を行う。また、必要に応じて他領域の教員からの指導を受けながら、研究成果の学会や学術論文への発表などを通して、高度な研究能力の養成を図る。</p> <p>(19) 岡田 雅之) インターネット基盤を運用し続けるための要素技術に加えPKIや電子署名などによるデジタルアイデンティティの取扱いについて先行研究の課題解決と発展的追及を指導する。インターネット基盤を運用し続けるための様々な要素技術の調査追及を指導する。</p> <p>(20) 大曲 勝久) 特別研究Ⅱで得られた調査・実験結果を再検証し、必要に応じ追加調査・研究を行い、その成果の学会発表、学術論文投稿および学位論文の完成に向けた研究指導を行う。また、必要に応じて他領域の教員からの指導を受けながら、研究成果の学会や学術論文への発表などを通して、高度な研究能力の養成を図る。</p> <p>(21) 古場 一哲) 特別研究Ⅱで得られた実験結果を再検証し、必要に応じ追加研究を行い、その成果の学会発表、学術論文投稿および学位論文の完成に向けた研究指導を行う。</p> <p>(22) 世羅 至子) 特別研究Ⅱで得られた調査結果を再検証し、必要に応じ追加調査・再解析を行い、その成果の学会発表、学術論文投稿および学位論文の完成に向けた研究指導を行う。</p> <p>(23) 柴崎 貢志) 特別研究Ⅱで得られた実験結果を再検証し、必要に応じ追加研究を行い、その成果の学会発表、学術論文投稿および学位論文の完成に向けた研究指導を行う。</p> <p>(24) 倉橋 拓也) 特別研究Ⅱで得られた実験結果を再検証し、必要に応じ追加研究を行い、その成果の学会発表、学術論文投稿および学位論文の完成に向けた研究指導を行う。</p> <p>(25) 田中 進) 特別研究Ⅱで得られた実験結果を再検証し、必要に応じ追加研究を行い、その成果の学会発表、学術論文投稿および学位論文の完成に向けた研究指導を行う。</p> <p>(26) 賈 曠) 特別研究Ⅱに引き続き、国際社会におけるメディアを媒介としたコミュニケーションに関する研究を通して博士の学位に相応しいレベルの研究論文を完成することができるよう研究指導を行う。また、必要に応じて他領域の教員からの指導を受けながら、研究成果の学会や学術論文への発表などを通して、高度な研究能力の養成を図る。</p> <p>(28) 齋藤 正也) 経時変化をともなう現象を対象として、計算機シミュレーションを用いた統計分析手法について先行研究の課題解決と発展的追及を指導する。</p> <p>(29) 飛谷 謙介) 感性情報処理技術および機械学習技術を用いた計算機による感性の理解を実現する種々の技術について先行研究の課題解決と発展的追及を指導する。</p> <p>(31) 駿河 和仁) 特別研究Ⅱで得られた実験結果を再検証し、必要に応じ追加研究を行い、その成果の学会発表、学術論文投稿および学位論文の完成に向けた研究指導を行う。</p> <p>(32) 松澤 哲宏) 特別研究Ⅱで得られた実験結果を再検証し、必要に応じ追加研究を行い、その成果の学会発表、学術論文投稿および学位論文の完成に向けた研究指導を行う。</p> <p>(33) 飛奈 卓郎) 特別研究Ⅱで得られた調査・実験結果を再検証し、必要に応じ追加調査・研究を行い、その成果の学会発表、学術論文投稿および学位論文の完成に向けた研究指導を行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
（地域創生研究科 地域創生専攻 博士後期課程）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究 指導 科目	特別研究Ⅲ	(㉔ 城内 文吾) 特別研究Ⅱで得られた実験結果を再検証し、必要に応じ追加調査・研究を行い、その成果の学会発表、学術論文投稿および学位論文の完成に向けた研究指導を行う。 (㉕ 石見 百江) 特別研究Ⅱで得られた調査・実験結果を再検証し、必要に応じ追加調査・研究を行い、その成果の学会発表、学術論文投稿および学位論文の完成に向けた研究指導を行う。	

長崎県公立大学法人 設置認可等に関する組織の移行表

令和3年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	→	令和4年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
長崎県立大学					長崎県立大学				
経営学部 経営学科	140	-	560		経営学部 経営学科	140	-	560	
国際経営学科	60	-	240		国際経営学科	60	-	240	
地域創造学部 公共政策学科	120	-	480		地域創造学部 公共政策学科	120	-	480	
実践経済学科	130	-	520		実践経済学科	130	-	520	
国際社会学部 国際社会学科	60	-	240		国際社会学部 国際社会学科	60	-	240	
情報システム学部 情報システム学科	40	-	160		情報システム学部 情報システム学科	40	-	160	
情報システム学科	80	-	320		情報システム学科	80	-	320	
看護栄養学部 看護学科	60	-	240		看護栄養学部 看護学科	60	-	240	
健康栄養学科	40	-	160		健康栄養学科	40	-	160	
計	730	-	2,920		計	730	-	2,920	
長崎県立大学大学院					長崎県立大学大学院				
地域創生研究科					地域創生研究科				
地域社会マネジメント専攻(M)	15	-	30		地域社会マネジメント専攻(M)	15	-	30	
ビジネス・マネジメントコース					ビジネス・マネジメントコース				
経済・地域政策コース					経済・地域政策コース				
メディア社会コース					メディア社会コース				
国境離島文化振興コース					国境離島文化振興コース				
情報工学専攻(M)	10	-	20		情報工学専攻(M)	10	-	20	
情報セキュリティコース					情報セキュリティコース				
人間情報科学コース					人間情報科学コース				
人間健康科学専攻(M)	12	-	24		人間健康科学専攻(M)	12	-	24	
看護学実践コース					看護学実践コース				
公衆衛生看護学コース					公衆衛生看護学コース				
栄養科学コース					栄養科学コース				
地域創生専攻(D)					地域創生専攻(D)	3	-	9	専攻の設置(認可申請)
人間健康科学研究科					人間健康科学研究科				
栄養科学専攻(D)	3	-	9		栄養科学専攻(D)	0	-	0	令和4年4月学生募集停止
計	40	-	83		計	40	-	83	